



出典：葛飾北斎《富嶽三十六景 深川万年橋下》東京富士美術館蔵「東京富士美術館収蔵品データベース」収録

# 江戸の「水運」観光ガイド

—今に息づく、東京の心。—

*The Waterways of Edo: The Spirit of Tokyo*

近代的でデザイン性の高いビルが立ち並ぶ現在の東京ですが、西暦1590年頃まではその多くが湿地帯で、人口も少なかったといわれます。しかし、徳川家康がこの地を治めるようになってから様相は一転。多くの人々が集う、活気に満ちた都市へと姿を変えていきました。

家康が江戸に注目したのは、この地域が広大な平野であり、それを利用して効率の良い物流を実現させられると考えたから。入府後は土地の埋め立てを行いつつ、水の豊かさを活かして暮らしに役立つ水路も整備しました。それにより「100万都市」へと発展していった江戸の姿は、「今の東京」の中にもしっかりと刻み込まれています。

## 江戸の「血管」、運河と水路

徳川家康がまず行ったのは、小名木川をはじめとする運河の掘削です。全国から人足を集めて行われたこの大事業は、江戸城建設のための物資を運ぶためだけでなく、人々の暮らしにも役立つものでした。網の目のように張られた水路を通して海から内陸部まで舟が行き来できるようにし、モノや人の流れを容易にしたのです。

当時の東京湾には、列島各地から米や塩、醤油、あるいは木材など数々の生活必需品が集まってきました。それらは「河岸<sup>かし</sup>」で荷下ろしされ、水路を通して江戸中に運ばれていたのです。つまり徳川家康の「水」を利用した都市計画は、先見の明があるものだった



と言えるでしょう。

## 水運とともに発展していった江戸の町

ニューヨークやロンドン、パリなど、世界の大都市はいずれも水辺に面した地域を中心に発展してきた歴史があります。鉄道や自動車が存在しなかった時代、都市に住む人々に

## 水運とともに

## 発展してきた東京の今昔



出典：葛飾北斎《富嶽三十六景 江戸日本橋》東京富士美術館蔵「東京富士美術館収蔵品データベース」収録

大量の生活物資を供給するためには、海運や河川舟運を利用しなければならなかったからです。江戸も同様に河川や水路を基盤としたインフラが整備されたことで、町に活気をもたらしていきました。「モノを運ぶ」役割のみならず、交通手段の一つとして、あるいは舟遊びなどの遊興の場としても水路を活用した江戸の人々は、まさに水とともに生きてい

たのです。

現代の東京でも、その名残はそこかしこに見て取れます。屋形船に乗って景色や食事を楽しんだり、川沿いの遊歩道を散歩してみたり、通勤などにも使われる船が運行していたり。陸運が発達した現代ですが、ふと目をやれば、今でも多くの水に囲まれていると気づくことができます。

十条駅

## 江戸前寿司



江戸幕府は物流に関わるインフラを熱心に整備し、モノを運ぶスピードを向上させていきました。陸上交通が未発達だった時代、大量の物資を運ぶのに利用されたのは、やはり舟。そこには米や酢、魚なども運搬されました。また、日本橋の小網町には醤油や酢などの問屋が軒を連ね、「江戸前寿司」の普及にも結びついたので。現在の東京湾の魚を用いた江戸前寿司は、新鮮な魚に「仕事（ひと手間）」を加えるのが特徴。これも多くの魚が流通するようになったことから生まれた知恵と言えます。

池袋駅

## 1 日本橋



五街道（東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道）の起点であり、水運の大動脈でもあったのが日本橋。街を歩けば、江戸からの伝統を多様な形で感じることができるでしょう。橋の上を走る首都高速は現在地下化が進められており、新しい景色が生まれる予定です。また、水上バスでのリパークルーズも運営されています。

新宿御苑

## 5 浜離宮恩賜庭園



江戸時代にはいつかあった、東京湾から海水を引き入れる「潮入の池」。これは潮の満ち引きによって、その姿を変える様式です。浜離宮恩賜庭園は、都内に唯一園内に2カ所「潮入の池」を持つ江戸期の庭園。かつては徳川将軍家の鷹狩り場で、後には別邸が建てられた場所でした。当時利用された船着場（御船入りの場）は、現在もその姿を残しています。水辺の景観と、季節ごとに異なる美しさを見せてくれる花や銘木を同時に鑑賞できる名所です。



千葉県  
松戸市

亀有駅

2  
柴又帝釈天

提供：(一社) 松戸市観光協会



3  
隅田川



一部は「大川」などとも呼ばれる隅田川は、江戸の人々にとって馴染み深い場所でした。物流の大動脈として機能していたのももちろん、舟遊びや花火を楽しめるなど、庶民にとってのエンターテインメントも提供していたのです。現在は約12kmにわたる「隅田川テラス」の整備が進められ、引き続き人々の憩いの場となっています。

2  
矢切の渡し

都内に唯一残る貴重な渡し場。江戸時代には各地で渡し舟が行き交い、人々は日常的に利用していました。しかし、今はそのほとんどが失われています。江戸初期から現在まで続くこの渡し舟に乗ってのんびりとした時間を過ごし、ノスタルジックな気分になってみませんか。

東京スカイツリー

東京メトロ半蔵門線

すみだ北斎美術館

新小岩駅

4  
小名木川



かつて多くの物資を運ぶために利用された、人工の運河。江戸時代から周辺地域の発展に大きく寄与しました。現在は、以前塩の道と呼ばれた江戸情緒が感じられる水辺の道をテーマとして景観が整備され、いかにも「水の都市」らしいおすすめの数コースになっています。

住吉駅

都営新宿線

東大島駅

4

小名木川

江東区中川船番所資料館

清澄白河駅

霊巖寺

江東区深川江戸資料館  
成等院

## 今も漂う江戸の空気を静かに感じる TOKYOウォーターフロント・マップ

水運にまつわるスポットは、現代の東京でも随所に残されています。それらを訪ねて「江戸」を感じ、その時代に思いを馳せてみてはどうでしょう。それにふさわしい見どころをご紹介します。

# ゆったりめぐる江戸の水辺のまち

徳川家康の号令で開削された小名木川は、当初塩の運搬が主目的でした。しかしのちに江戸舟運の中心となり、深川など周辺地域も発展。江戸時代に職人や商人などの庶民が住んでいた「下町」は、この川の周辺を含む隅田川の東側を指しているとの説もあります。今は喧騒を離れてゆったり過ごせる散策コースです。

※最新の施設情報は公式HPをご確認ください。



13:00~14:00

## 江東区 深川江戸資料館

江戸時代の深川の暮らしに実際に触れられる体験型展示は、江戸の町や人々の生活への興味を誘い、知識を深めてくれます。江戸深川の歴史、民俗、そこから生まれた数々の「知恵」を学べるのポイント。復元された江戸の町並みをそぞろ歩き、江戸っ子気分を味わってみては。

### 施設情報

公式ページをご確認ください。

<https://www.kcf.or.jp/fukagawa/>



提供：一般社団法人江東区観光協会



14:05~14:25

## 靈巖寺

江戸六地藏<sup>※1</sup>の一つである「銅造地藏菩薩坐像」が鎮座するお寺。地蔵といふとごだんまりとした姿が思い浮かびますが、こちらは像高273cm。圧巻の大きさです。境内には、江戸幕府の財政難に立ち向かった老中・松平定信の墓も現存。晩年、深川に住んだ定信は白河藩主でもあったことから、町名の由来ともなっています。江戸の水運の要である小名木川にもほど近い、静けさに満ちた名所です。

### 施設情報

☎ 03-3641-1523 📍 東京都江東区白河1-3-32





14:30~14:35 歩

## 成等院

八丁堀で材木問屋を営んでいた、豪商・紀伊國屋文左衛門が眠る寺院。老中などの要人と結びついて幕府御用達となった彼は、巨万の富を蓄えました。材木の運搬には水路が用いられたため、水との縁も深いと言えます。現在その墓域に立ち入ることはできませんが、門の外から墓や石碑を垣間見ることは可能です。

### 施設情報

📍 東京都江東区三好1-6-13  
🕒 ー

歩 14:45~15:35

## 清澄庭園

泉水・築山・枯山水を主体とした回遊式林泉庭園。庭園そのものは三菱財閥創始者である岩崎彌太郎以降三代によって完成されたため、明治期の庭園と定義できますが、この地の一部は江戸の豪商・紀伊國屋文左衛門の屋敷跡とも伝えられているため、ルーツは江戸期にあります。隅田川の水を引いた大泉水、多数の名石を鑑賞できるだけでなく、数寄屋造りの「涼亭」は集会場として利用可能です。

### 施設情報

📞 03-3641-5892 (清澄庭園サービスセンター)  
📍 東京都江東区清澄3-3-9 🕒 12/29~1/1  
🕒 9:00~17:00 (入園は16:30まで)



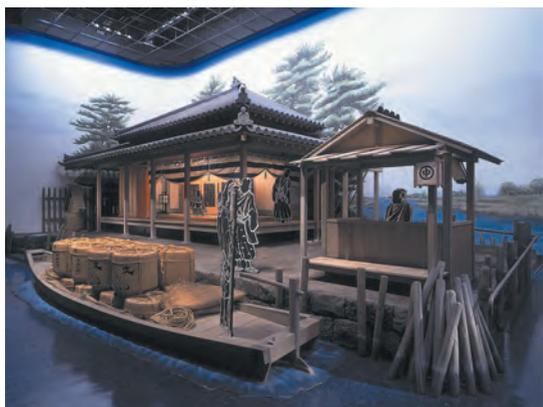
16:00~17:00 歩

## 江東区 中川船番所資料館

かつて中川口<sup>※2</sup>に設置され、小名木川を通る船の取り締まりを行った「中川番所」は、多くの人やモノの流通に必須となる安全性の確保、江戸の秩序の維持などを担っていました。館内には当時をうかがえる番所の一部を再現。江戸を含めた関東の水運についても情報が集められ、その歴史や文化を見つめることができるスポットです。

### 施設情報

📞 03-3636-9091 📍 東京都江東区大島9-1-15  
🕒 毎週月曜日(祝日の場合は翌日休館)・年末年始(12/29~1/3)  
※設備点検・展示替え等ある際は臨時休館  
🕒 9:30~17:00(入館は16:30まで)



※2 中川口は現存しない地名(小名木川と中川(現:旧中川)の交差する地点)です。



東京の観光公式サイト「GO TOKYO」  
東京の最新の観光情報が確認できます。ぜひご覧ください。  
<https://www.gotokyo.org/jp/>



東京の観光公式サイト「GO TOKYO」  
もっと江戸について知りたい方  
<https://www.gotokyo.org/jp/see-and-do/history/>



「Journey Through Edo's Legacy」  
日本各地と連携した江戸時代の歴史や文化を感じる100の観光スポットを解説  
<https://edolegacytravel.metro.tokyo.lg.jp/>



Go Tokyo  
(東京ファンクラブ)



@TokyoTokyoOldmeetsNew



@tokyo\_kankou



tokyotokyooldmeetsnew

**TokyoTokyo** Old meets New **EdoTokyo** THE LEGACY OF EDO

令和8年1月発行 東京都産業労働局観光部  
<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/>  
監修: 古畑 侑亮、株式会社風ブランニング